

～休日受診よりも多い乳幼児の夜間受診～

平成26年度地域政策研究センター(地域提案型・後期)

課題名 : 小児救急医療体制の状況等の調査分析
研究代表者 : 看護学部 教授 白畑範子
課題提案者 : 久慈市生活福祉部保健推進課 大道学
研究メンバー : 大道学(久慈市)、原瑞恵、柴田周子(看護学部)
キーワード : 乳幼児、夜間受診

▼研究の概要(背景・目標)

入院救急医療機関を受診する9割以上の子どもは、受診当日に帰宅できる状態の軽症であることが指摘され、本県においても約7割が軽症である。特に、久慈市においてはその傾向が強く、受診に至るまでの段階で保護者が抱く不安の解消と安心感の提供が求められている。

乳幼児期の子どもを育てる親が利用する救急医療の現状を把握し、行政活動等への活用を資することを目的とした。

▼研究の内容(方法・経過)

1. 調査対象

久慈市内の保育園および幼稚園に通園している保護者1,283名

2. 調査方法

無記名による自記式アンケート調査

3. 調査期間

平成27年9月

▼研究の成果(結論・考察)

1. 岩手県立久慈病院の救命救急センター外来に夜間受診したことがあった乳幼児は、休日受診の305名(51.3%)よりも多い、416名(69.9%)であった。

2. 夜間および休日に受診したときの病状は、高熱、嘔吐が多かった。

3. 受診の理由は、すぐ診てもらいたかった、重症だと思った、どうすればいいかわからなかったが多かった。

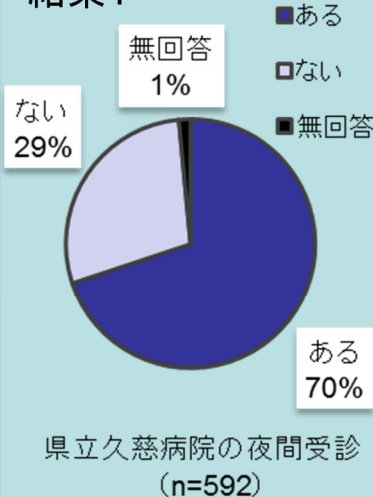
4. 岩手県立久慈病院の救命救急センター外来に夜間受診した乳幼児のうち、緊急入院となったのは、97名(23.3%)であった。

▼おわりに(まとめ・今後の展開)

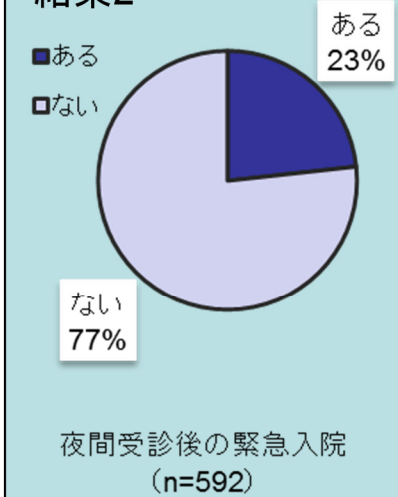
1. 夜間や休日に小児科医による医療を提供するのは、小児科医師数の現状から限界がある。

2. 乳幼児を育てる家庭に、受診の判断に関する情報の活用や相談窓口を生かした子育てを普及する必要がある。

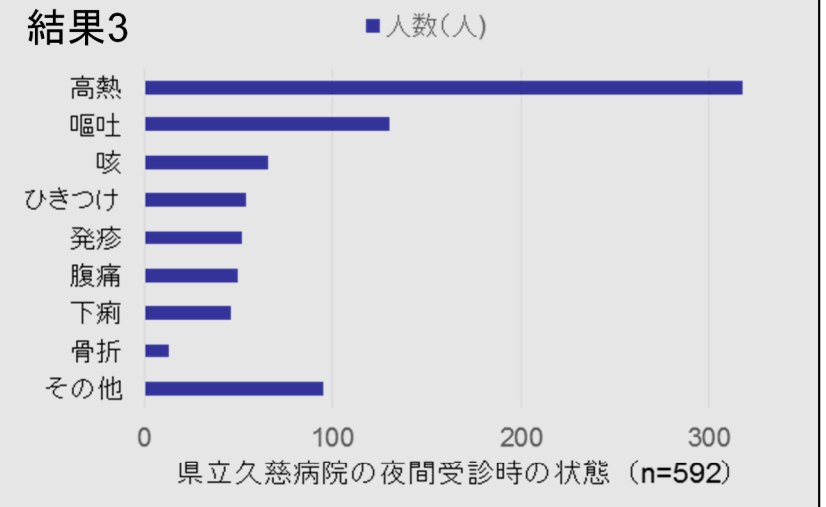
結果1



結果2



結果3



結果4

